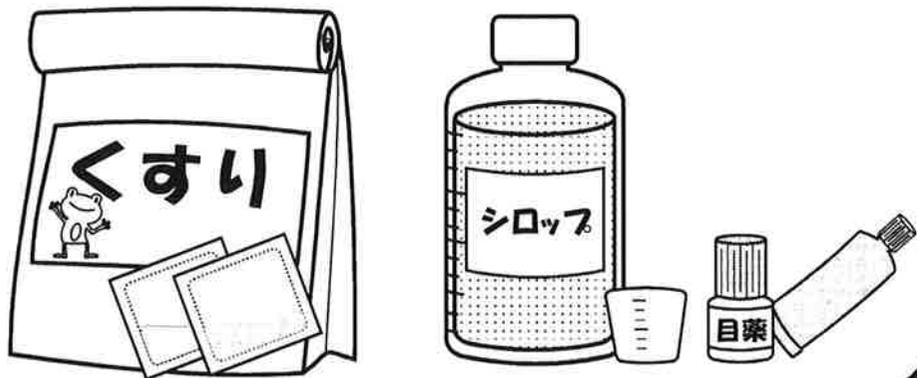


キッズシリーズ②

薬の飲み方



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

げんき君 ホームページ
健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

薬の上手な飲ませ方

薬を飲ませる時間

○食前、それとも食後？

基本的にはどちらでもかまいません。
ただ、食後は満腹で飲まなかったり、食べたものと一緒に吐いてしまうこともあるので、食前の方がよいのかもしれませんが。

○【1日〇回】は、いつがよい？

「1日〇回」または、「食後に1日〇回」と指定されていても、寝ていることもあり、時間どおりに飲むことができません。
「1日3回」の場合は、食事や時間にとらわれず起きている時間の三等分を目安にしてください。
例えば、午前8時、午後2時、午後8時などです。
幼稚園などで昼に飲めないときには、「朝」、「幼稚園から帰宅後すぐ」、「寝る前」の3回でもいいでしょう。

子どもにきちんと話をしましょう。

どんな小さな赤ちゃんでも、薬を飲ませる前にはきちんと話をしましょう。

- ・この薬を飲むとつらい症状がなくなり病気が治ること。
- ・病気が治ると、もっと元気になれること。

子どもは納得すると、すんなり飲んでくれることもあります。
泣いているのに、無理やり飲ませるのはやめましょう。

食べ物に混ぜる薬の飲ませ方

…どうしても飲めない時…

食べ物に薬を飲ませる前に

○混ぜてはいけない食品

主食の、ミルク（乳児）、おかゆ、うどんなどに混ぜるのはやめましょう。

薬を混ぜると、その食べ物自体を嫌いになってしまいます。

○薬の飲み合わせ

薬によっては、食べ物に混ぜると薬の効果が弱まったり、甘いものや酸味のあるものに混ぜると、味が苦くなりすぎて薬を飲めなくなるものもあります。

薬がわからない場合や、混ぜなければ飲めないお子さんは薬をもらうときに薬剤師さんに相談してください。

薬を混ぜる食品

○乳製品やジュース

牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなどに混ぜると、食品の味が濃いため、薬の味がわかりにくく、子どもが気付かずに食べたり飲んだりします。

※味が苦くなる場合があるので、薬をもらうときに薬剤師さんに相談しましょう。

○薬の服用ゼリー

薬が苦手な子どもが簡単、安全に飲めるように作られたゼリー状のオブラートです。

錠剤、カプセル、顆粒、粉薬などゼリーで包み込むことで味や匂いを感じにくくします。



シロップ剤

＜特徴＞ 飲みやすいように甘い味がついています。

＜注意＞

- 開封後は冷蔵庫で保管しましょう。
- 砂糖を加えているために、室温では空気中の細菌が混入して繁殖しやすくなります。
- ミルクの赤ちゃんの場合は哺乳ビンには入れず、乳首だけ使います。スポイトがあれば、それを使いましょう。
- 飲みやすくしてあり、ベタベタするので飲み終わった後は湯冷ましを飲ませましょう。

＜シロップの飲ませ方＞

- ①容器を静かに振り混ぜ（泡立てないように）ます。
- ②必ず、1回分を付属の計量容器や小さなコップ、小皿に取ります。一口で飲める量ずつスプーンやスポイトで流し込みます。
- ③その後、湯冷ましやミルクなどを飲ませてください。



ドライシロップ

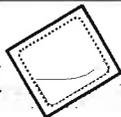
＜特徴＞ 細かい粒状の薬で飲ませやすいように甘味がついています。

＜注意＞ 溶かしたままにしておくと効き目が落ちますので、1回分ずつ溶かします。

＜ドライシロップの飲ませ方＞

水に溶かして飲ませます。飲ませ方はシロップ剤と同じです。

粉薬



<特徴> 子どもに一番よく使われる薬です。
月齢、年齢、体重、症状に合わせて、成分や量を細かく調節することができます。

<注意> 病気が治ったあと、残った薬は捨てましょう。
何かのときのために取って置いても、赤ちゃんや子どもは成長して体重も増えるので、薬の量が変わりますし、同じ症状のように見えても違う場合があります。

<粉薬の飲ませ方>

- ① 1回分を小皿やスプーンにとり、水か湯冷ましを加えて、指先で練ります。
- ② 赤ちゃんや子どもを抱っこして、口を大きく開けさせます。無理矢理こじ開けようとすると、子どもは口を開けません。お母さんが「アーンとしてごらん」と言い、大きな口を開けるとつられて開けます。
- ③ 薬をお母さんの指につけて、赤ちゃんのほほの内側や上あごにつけます。あまり深くに入れてしまうと吐いてしまいます。
- ④ その後で、湯冷ましやミルクを飲ませます。時々その後、ミルクや母乳を嫌がることもありますが、すぐに戻ります。
- ⑤ 子どもの場合は、水で練った粉薬をアイスクリームなどと一緒にスプーンにのせて飲ませるといいでしょう。

坐薬



<特徴> 坐薬は肛門から入れる薬です。吸収が速く全身に行き渡るので即効性があります。
坐薬は、胃や肝臓への負担が少ないので、乳幼児やお年寄りの方、胃腸の弱い方に適した薬です。

<注意> 肛門に入れる薬なので飲まないで下さい。
排便を済ませてから使います。
使用の前後には手を洗って下さい。
坐薬を入れてから20～30分くらいはあまり動かないようにして下さい。

<坐薬の入れ方>

- ① オムツを取り替えるように、足を上げてとがった方から肛門に入れます。
- ② 入れたあとはティッシュペーパーやオムツでしばらく押さえておきます。
- ③ 坐薬を入れてすぐにウンチと一緒に薬が出てしまったときには、もう一度入れます。
20～30分以上たってからウンチが出た場合は、入れ直さなくても大丈夫。
薬はすでに吸収されています。

注：坐薬はお母さんの指の温かさで溶けやすいので、入れる直前まで手で持たないようにします。



点眼薬(目薬)



<特徴>

目に直接たらず薬です。
目が充血したり、結膜炎などで目やにがたくさん出るときに使われます。
それぞれの症状によって薬の成分は違います。
子どもの点眼薬は効き目がマイルドになっています。

<注意>

- 「目薬をささないで目が見えなくなっちゃう」、「お医者さんに怒られる」「目がなくなっちゃう」など、恐怖心を抱かせるようなおどし言葉は言わないようにしましょう。
- この薬で、バイ菌が「さよなら」していくなどと教えましょう。

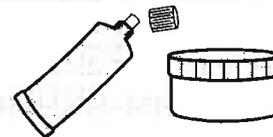
<点眼薬のさし方>

- ①お母さんのひざの上に仰向けに寝かせます。
- ②下まぶたをそっと下に引き、下まぶたの内側に1滴たらしめます。
容器の先が目につかないように注意しましょう。
- ③そのまま静かに目を閉じさせ、1分間そのままに。

注：1回量は1滴です。
入らなかったのではないかと、何滴もたらずのはよくありません。



塗り薬



<特徴>

湿疹などに直接塗って使う薬です。
軟膏、クリーム、ローションタイプがありますが、それぞれ薬を溶かしている成分が違います。
○軟膏…少しべたつきがありますが皮膚を保護する働きが強いもの。
○クリーム…のびがよく使いやすいが、皮膚を乾燥させやすいもの。
○ローション…広範囲に塗るときに適していますが、水で簡単に洗い流せるので、薬の定着率が悪くなります。傷があるとしみるので使えません。

<注意>

- 早く治ってほしいとばかりに何回も塗ったり、厚く塗ったりするのはやめましょう。
- ステロイド剤の副作用も心配するお母さんがいますが、赤ちゃん・子どもに処方されるのは、作用の弱いものです。心配な場合は医師とよく話し合しましょう。

<塗り方>

- ①お母さんの手をきれいに洗い、患部を水で絞ったタオルでふきます。
- ②湿疹の範囲が狭いときはお母さんの指に、薬をつけて皮膚にのばします。
範囲が広いときは、湿疹のまわりにほんの少し、輪を描くようにつけてからのばします。

